

翁

分林道治

日本全国 能楽キャラバン!
一陽来復祈願能 IN 和歌山 御坊

道成寺

片山九郎右衛門



令和3年11月11日(木) 午後2時開演(午後1時開場) 於 御坊市民文化会館

主催:公益社団法人能楽協会 公益社団法人京都観世会 協力:公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団



【会場】御坊市民文化会館

和歌山県御坊市南258-2
TEL(0738)23-4881

【アクセス】

- JR御坊駅より
- 紀州鉄道:紀伊御坊下車、徒歩2分
- 御坊南海バス:日の岬パーク行乗車 市民文化会館前下車すぐ
- タクシー:約10分
- 徒歩:約30分

湯浅御坊道路、I.C.より約10分

※お願い

駐車スペースが50台分程しかございませんので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

【入場料】 ■一般 5,000円
全席自由席 ■学生 2,000円

当日、学生証の提示が必要です

●チケット発売所 チケット発売開始 2021年9月14日(火)

・公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団

TEL:075-551-6535

E-mail:k-zai@drive.ocn.ne.jp

・御坊市民文化会館

TEL:0738-23-4881

・イープラス eplus.jp (WEB/アプリ/Famiポート)

https://eplus.jp/sf/detail/3484080001-P0030001



※未就学児童のご入場は、ご同伴の場合でもお断りいたします。※開演後の入場につきましては、入場制限をさせていただきます。※出演者などの変更の場合はご了承ください。※新型コロナウイルス感染防止のために座席間隔を空けて販売します。

一陽来復祈願能 in 和歌山御坊

於 御坊市民文化会館
令和三年十一月十一日(木) 午後二時始

翁

分林道治

面箱 茂山虎真
三番三 茂山逸平
千歳 河村和貴

大鼓 河村 大
脇鼓 上田敦史
頭取 大倉源次郎
脇鼓 荒木建作

笛 杉信太郎

後見 青木道喜
大江又三郎

地謡

河村和晃 片山伸吾
吉田篤史 杉浦豊彦
田茂井廣道 井上裕久
浦部幸裕 浦田保親

狂言後見

茂山宗彦
島田洋海

～(休憩十五分間)～

能

道成寺

宝生欣哉

則久英志
梅村昌功

間 茂山七五三
茂山宗彦

片山九郎右衛門

大鼓 石井保彦

太鼓 前川光範

小鼓 吉阪一郎

笛 森田保美

後見

橋本忠樹
小林慶三
大江信行

地謡

樹下千慧 吉浪壽晃
宮本茂樹 浦田保浩
松野浩行 河村和重
橋本光史 古橋正邦

鐘後見

味方 玄 大江広祐 深野貴彦
味方 團 河村浩太郎

狂言後見

茂山逸平 鈴木 実
島田洋海 柴田鉄平

終了予定

午後五時頃

能 翁

面箱を先頭に立て、翁、千歳、三番三、囃子方、後見、地謡の諸役が橋掛りから登場。翁の役者は舞台右奥に着座し祝言を謡う。千歳の役は、観世流ではシテ方が演じる。千歳の舞は若者の颯爽とした舞で、翁の露払いとしての性格を持つ。その間に、翁の役者は翁の面(白色尉)を舞台上で前を向いたまま着ける。千歳の舞が終わると翁は立ち上がり、祝言の謡と祝の舞を舞うと、もとの位置に着座して翁の面をはずし、退場する。翁が千歳の舞と翁の舞の二場面からなるのと同様、三番三も「採ノ段」と「鈴ノ段」の二つの場面からなっている。「採ノ段」は面を着けず、リズムで躍動感あふれた舞。次に三番三の面(黒色尉)を着け「鈴ノ段」で鈴を持って祝いの舞を舞う。舞が終わるともとの位置へ戻り面を取り、退場する。

「翁」は「式三番」ともよばれ、能・狂言のルーツともいえる、古風で独自の様式を持った、祝言性に満ちた儀式的な芸能である。

通常の能では、シテは幕内で面を着け、ひとつの役がらになってから登場するが、「翁」では、役者はあくまで「人」として登場し、舞台上で面を着けることによって「神」に変身する姿を見せる。能の囃子は笛、小鼓、大鼓、曲により太鼓によって構成されるが、「翁」では小鼓が三人登場し、翁の舞が終わる翁の役者が退場するまでは、笛と小鼓三人だけで囃す。三番三になってこれに大鼓が加わる。小鼓は頭取(リーダー)と他の二人が異なったパターンを打ち、独特かつ複雑なリズムを刻んでいく。地謡も「翁」に限って、いつもの舞台右側の地謡座ではなく、舞台後方の囃子方の後ろに座る。

「能楽鑑賞百一番」淡交社より

能 道成寺

紀伊国道成寺の釣鐘が失われてから、時が久しくたった。その再興の日のこと、住僧は能力に女人禁制を申し渡す。そこへ白拍子の女が来て能力に頼みこみ、舞を見せることを条件に寺内に入れてもらい、乱拍子(らんぱし)など舞ううち、隙をうかがって鐘に近づくと鐘は落下し、女はその中に消えた(「乱拍子(急ノ舞)ノ地中入」。能力から知らされた住僧は、それは怨霊の仕業であろうと次のように物語る。昔、この国のまなごの長者の娘に慕われた山伏が、この寺に逃げて来たので、寺では釣鐘を下ろして隠したところ、娘は執心のあまり大蛇となって追いつがり、鐘に巻きつくと鐘は溶けて山伏は死んだというのである(語り)。先白拍子はその娘の怨霊であろうと、住僧たちが鐘に向かって祈ると、鐘は再び上がり、鬼女の姿が現れる。鬼女は僧にいとみかかると、祈禱の力に負けて逃げ去って行く(「イノリ(中ノ地)」)。

道成寺縁起などに取材し、恋の執念を描いた作品。観世信光作といわれる《鐘巻》を短く切りつめ、《乱拍子》を眼目に再構成したものと考えられている。乱拍子は、小鼓の打音と鋭い掛声に合わせ、足を踏み出したり、爪先やかかとを上げ下ろしたりする所作を繰り返して、囃子の段ごとに足拍子を踏んで区切りをつけていく。その一つ一つの足遣いの間に、長い間合いを計るコミが置かれ、他の舞事とは趣をまったく異にする。この乱拍子をはじめ、続いて演奏する急ノ舞、舞台中央に釣り下げられた鐘に飛び入る中入と、緊張が長時間続くので、体力を要する能といわれ、重い習物(ならいもの)とされている。

歌舞伎、沖繩舞踊などに影響が大きく、多くの(道成寺物)が作られている。

「能・狂言事典」平凡社より

- 会場内では、必ずマスクの着用をお願いいたします。
- 会場内、ロビー等での大きな声での会話は、ご遠慮ください。
- 受付にて体温計測を行います。
- 体温が三七・五度以上の場合には入場できません。